

Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第105号

ななえ古写真物語

VOL. 105

牛と馬

七重官園写真帖より

明治10年頃

七飯郵便局付近



明治時代のはじめに、当町へ設置された七重官園については、過去にも再三触れていたところだが、今回はその中からの一枚として、種牡馬舎の様子を写したものを紹介したい。

種牡馬舎と呼ばれるこの建物があつた場所は、現在の国道5号沿いにある七重小学校グラウンドや七飯郵便局のあたりと考えられる。なぜなら、写真手前に2段から3段積みになった石垣が確認できるからで、これら石垣の一部は、官園の面影を残す数少ない建造物として今も現存している。その為、実際に確認はしていないが、積まれた石の形状を事細かに見比べれば、より正確な場所が分かるかもしれない。

一方で、種牡馬舎が建っている一段高くなった場所は、建物が失われ、また桜などの樹木が植栽されていたりと、その面影をまったく感じさせない。過去にこういった施設があつたことを写真は如実に記録する好例といえよう。

牛や馬は耕運機が発達する昭和30~40年代までの農業にとって欠かせない動物で、日本で初めて西洋農器械を使用した七飯町にとっても、これらの畜力による農業が主流であつた。そのため、外国から新たな牛馬を導入し、交配させることも官園の仕事のひとつだつた。

馬匹改良については、ピチャリ73号の「ななえと馬」にて、その指導に外国人教師エドウィン・ダンや日本のホースマンの始祖である函館大経の存在とともに紹介したが、この写真のほかに、種牡馬舎も存在したことから、どうやら雄と雌は別々に管理されていたと想像でき、また写真に映っている牛と馬が、国産か外国産か、写真からはわからないが、両者が並んで撮影されていることから、牛も馬も同じ建物で管理していたのだろう。

エサについては、牛馬とも乾草や穀類を与えていたが、明治10年に水車場という施設が建設されてからは、大型の石臼で破碎した大麦、トウモロコシを中心に、特に牛には、生乳の味と量を増加させるため、穀物のほかに馬鈴薯や蕪菁(カブ)、黍菜(ビートの仲間か?)を与えていたと記録されている。

ところで、この種牡馬舎をみると屋根は瓦で、採光のためか建物上部に窓が多く取り付けられているのがわかる。洋風な造りながら、和風な屋根を持つモダンな建物なのだが、今の所、正確な建設年月日がわかっていない。これは当館の宿題となっているのだが、詳しく知る方がいらしたら、ご教授ねがいたい。

3日

夜の博物館第3夜は、七飯淡水実験所で行いました。テーマは「知っているつもりの魚のしくみ」。講師は所長の山羽悦郎氏です。いつもと違う場所で行う講座、参加者の皆さんは、置いてある道具などに興味津々。今回は、魚の解剖実験を行いました。鱗を取って顕微鏡で観察したり、注射器を用いて採血したり、魚の赤血球を見たりと盛りだくさんな内容。また、イトウはひと腹で4000～6000個の卵を産むそうで、まだまだ知らない魚の世界を感じた一夜でした。



20日

ジュニア探検クラブでは、「昆虫採集」に出掛けました。大沼の林で長い網を持ち、道具の使い方を習ってからスタート。ところが・・・目を皿にして、樹液の出る木などに姿を求め、探すのですが、帰り際に見つかり出すという結果に。捕まえられた子もそうでなかった子もひと夏の思い出になったかな。午後は野菜の水耕栽培の工場を見学。試食では苦手なピーマンを生でたべられた！の声。良かったね。

企画展を開催しています。

10月23日(日)まで、当館企画展示室において、「集めたり、揃えたり。」を開催しております。カメラ・鉄瓶・マッチ・民藝品など、生活の中から生まれた「用の美」、道具としての機能だけではなく、日々の暮らしに彩りを与えるものに焦点をあてています。民藝品は、お土産品として売られているものでも、その技術は精巧で、美しいものも多く、例えば「こけし」は、東北を代表とするものですが、11系統に分類することができ、作りや顔の表情は、産地や工人により異なります。懐かしさや新しさと呼び起こす品々。皆さまの御来館をお待ちしております。



10月の予定

1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月 体育の日
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日 企画展CLOSE
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土 ジュニア探検クラブ・町民文化祭
30	日 第57回七飯町民文化祭・第2会場
31	月

10月の休館日はありません

ひょうたん

五月から歴史館で育成していた千成ひょうたんを収穫。雨や風に耐え、立派に実った瓢箪。さて次は最終段階のタネ出しです。上手いにくいかな。



編集後記 ~tawagoto~

気付くと空気が澄みわたり、すっかりと秋めいてきた。ついこの間まで鳴き騒いでいたセミの声も静まり、トンボも赤く染まっている。日ごとに木々の葉に色彩が増していく。おそらく、秋はせつかなほど足早にやってくるのだろう。

そんな、つかの間のゆったりとした時間を楽しみながらも、一方で積みあがっていく仕事に、見ないふりして過ごすこの時が、永遠に続かないことはわかっているのだが。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~
第105号

平成28年9月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp